

船橋市立船橋中学校 の実践について

協議の記録

Q1：小学校から中学校への引き継ぎは具体的には、いつ頃、どのような形で行われているのか。

A1：中学校での通級による指導が教育支援委員会で決定してから、実際に小学校へ行き子供の様子を参観に行っている。子供とは簡単に話し、中学校の通級の先生だということも伝えてる。訪問する時間帯を考え、保護者へも挨拶をしている。担当同士で引継ぎも行っている。子供たちは、船橋中学校の通級指導教室の様子を知らないで、卒業してから入学までの間に船橋中学校で三者面談のような形をとっている。そこで、中学校の生活がイメージできるように話している。そうすることで、中学校でも通級指導教室にスムーズへ来れるようになる。

Q2：保護者、在籍校との連携をどのようにしていて、支援に生かしているのか。

A2：年に2回から3回面談をしている。1人1時間以上はかけている。時間をかけて保護者の心をひらく、和らげる面談に心がけている。在籍校には、入学直後、資料をもって、伝えに行っている。連絡帳で通級での様子は担任に伝える。問題等があれば、管理職にも伝える。在籍校から本校に来てもらえるように日程を調整している。

Q3：校内で、各先生方に対して共通理解はどのように図っているのか。

A3：1,000人を超える学校で、実際は支援のない生徒も含めて、どうするかは大きな課題かもしれない。生徒指導担当はいるが、特別支援教育の担当は学年にはいない。研修等もなかなかできない中で、通路での立ち話をきっかけに周りの先生方も引き込んでいく話し合いにしている。時間が取れない中でこの方法は、今は有効であると考えている。まだまだ、ケースがたくさんあるので校内支援の充実には組織として動けるようしていかなければならないと思っている。

室長の講評

中学校3年間を経て、高校生活をどのように送っているのかということ、改めて聞き取りをして、現状を明らかにしていただいた。そうした中で、通級指導教室の内容や支援方法をこれからどのようにしていけばいいのかを明らかにしたことは、中学校における通級指導教室を充実させる上で、大変重要な成果である。

今回、新たに中学校と高等学校の合同研修を実施したことによって、支援の実際の周知、啓発を進めていただいたことは、大きな一歩であると考えている。

この4月から高等学校における「通級による指導」を県立幕張総合高等学校、県立佐原高等学校で実施することとなる。船橋中学校の先生にもこの「通級による指導」の準備に向けたワーキングチームに参加していただいているが、さらに小学校、高等学校の連携をこれからまた深めていただき、中学校における「通級による指導」を深めるとともに、高校に向けて引継ぎをどのようにしたらよいかを、さらに深めていただき、周知していただきたい。